

第42年度（2026年度）

ソフトウェア 品質管理 研究会

生成AI時代に、ソフトウェア品質で価値を生み出す
技術と人間力を探求・実践する一年

各分野・第一線の
専門家による
特別講義

自職場の問題解決！

他の研究員
との
情報交換・相互研鑽

経験豊富な
講師陣による
分科会指導

- 活動期間：2026年5月～2027年3月
- 実施形態：ハイブリッド開催（集合・オンライン）
- 参加費：326,700円（一般）・297,000円（会員）＊税込
※継続参加特典あり
- 申込方法：SQIP研究会 Webサイト「参加要項・申込」から
お手続きをお願いいたします。
- URL：<https://www.juse.or.jp/sqip/workshop/>



主催：一般財団法人 日本科学技術連盟

参加のおすすめ

生成AI時代に、ソフトウェア品質で価値を生み出す技術と人間力を探求・実践する一年



第42年度(2026年度)ソフトウェア品質管理研究会 運営小委員会 委員長

鷲崎 弘宜

早稲田大学／国立情報学研究所／
エクスマーシオン／人間環境大学／SI&C

生成AIおよびエージェントが、その急速な進展により、ソフトウェアの開発や品質保証、運用、さらにはマネジメントに至るまで活用されつつあります。生成AIの登場により「開発者」の裾野が顧客にまで広がり、IoTやデータ科学の発展も受けて業務のデジタル化やDXがさらに加速しました。いまや膨大な数のソフトウェアが、これまでになく短期間で生み出され、消費される時代となっています。ただしAIは、しばしば誤ります。また、顧客は必ずしもソフトウェアの専門家ではありません。

このように、生成AIやエージェントが開発・運用に参入し、顧客やユーザ自身も関与できる時代だからこそ、「何が正しく何が誤っているのか」「価値を生み出す本質は何か」「そのための作り方・見極め方はどうあるべきか」、といった問いを押さえることが重要です。新時代のいまこそ、AIの力を適切に活かしながら、ソフトウェアの品質を正しくエンジニアリングし、マネジメントするための知識・技術・責任が、これまで以上にソフトウェア品質技術者に求められているのです。しかし、ソフトウェア分野は変化が速く、各企業が独自に取り組むだけでは、世の動向や水準的確に捉えた育成を進めるのは容易ではありません。加えて品質を実践する人材には、技術だけでなく、状況や人に向き合う「人間力」も欠かせません。

そこで本研究会は、1年間を通じて、経験豊富な指導陣の技術に対する姿勢や実践知を共有します。組織を超えた研究員同士の交流を通じて、教科書では得がたいリアルな技術を学び、さらに論文執筆などの経験を通じて、人間力や品質に向き合う心構えを養っていただきます。

本研究会は長い歴史を持ち、品質の本質を探究し続けながら、アジャイル品質やAI品質といった新たな技術・考え方を取り入れてきました。特に40周年を迎えた一昨年度以降は、研究会自体のDXを進め、さらなる価値を提供しています。オンラインと対面のハイブリッド開催による学びの場の拡大、特別講義などのオンデマンド化、セミナーやイベント割引によるステップアップ支援など、多彩な機会をご提供します。

若手からベテラン、品質保証・開発・マネジメントなど多様な立場やレベルの方々が集い、本質を見極め、多面的かつ実践的に学びを深め、品質で価値を生み出す人材、仲間、技術づくりに貢献する我が国随一かつ世界的にも貴重な場です。ぜひご参加ください。

研究員の職場の問題発見

解決手段

職場での実践

■最先端を知る(特別講義・指導陣)

■他社からの新たな視点(研究員)

■客観的な意見(指導陣・研究員)

■専門的知識(指導陣)

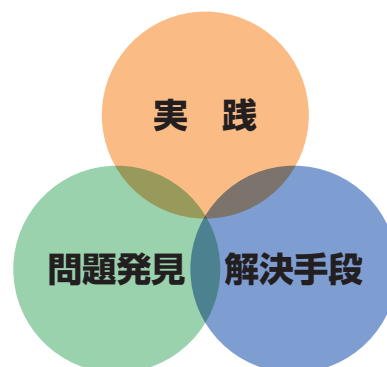
■豊富な実践経験(指導陣)

■深く考える(指導陣・研究員)

■相談ができる(指導陣)

■心の支えになる(研究員)

■一生付き合える仲間(指導陣・研究員)



これまでオンラインで実施してきたノウハウをもとに、本研究会のさらなる進化を目指して活動していきます。今年度も「ハイブリッド(集合・オンライン)」で開催します。

(集合:日科技連・東高円寺ビル、オンライン:Web会議システム[Zoom])

集合して対面で活動する良さとオンラインで活動する良さの両面を活かして、より多くの方にご参加いただける活動環境を整えています。長年培ってきた研究実績とともに、本研究会の良さを知っていただき、一緒に研究活動ができれば大変嬉しく思います。この機会にぜひ、派遣・参加をご検討ください。皆様のご参加をお待ちしております。

■ ハイブリッド(集合・オンライン)の良さとは?

- ①様々な分野の業種から、多様な立場の方が参加し、持ち込んだ課題について議論ができます。
- ②人と人との交流を通じ、より意思疎通ができ、「研究員と研究員」、「研究員と講師」の輪が広がります。
- ③お互いの想いを肌で感じ、さらに深い議論ができます。
- ④これまで遠方により派遣・参加が難しかった方でも一緒に議論ができます。
- ⑤オンラインホワイトボード(Miro)などを駆使し、「いつでも」、「どこでも」演習・研究活動ができます。
- ⑥定例会以外にも指導や議論のためのオンラインミーティングが実施できます。
- ⑦一つの会場での研究活動を行うため、斯界の第一人者である指導講師から助言、アドバイスを受けられます。
- ⑧研究員限定特典(P.3参照)により、多くの知識習得・深耕の手助けとすることができます。

■ オンラインで使用するツール(一例)

▶Zoom(必須):

本研究会では、特別講義、分科会活動とともに、Web会議システム[Zoom]を使用します。

▶メーリングリスト(ML)、オンラインホワイトボード(Miro)等

研究活動、演習を進めていく上で、各コースで準備するツールがございます。具体的に使用するツールは、指導講師と参加者で相談の上、決定します。

1 例会スケジュール

例会回数	例会開催日※ ¹	活動内容※ ²		
		9:50-12:00		13:00-18:00
第1回例会	2026年 5月29日(金)	9:50-10:00 オリエンテーション	10:00-12:00 特別講義	分科会活動
第2回例会	6月19日(金)	特別講義		分科会活動
第3回例会	7月16日(木)～17日(金)	合宿(1泊2日)※ ³		
第4回例会	9月10日(木)～11日(金)	ソフトウェア品質シンポジウム2026※ ⁴		
第5回例会	10月16日(金)	特別講義		分科会活動
第6回例会	11月13日(金)			
第7回例会	12月11日(金)			
第8回例会	2027年 1月22日(金)			
第9回例会	3月12日(金)	分科会成果発表会		

※1: 例会開催日は都合により、変更になる場合がございます。変更が生じた場合は、Webサイトでお知らせいたします。

また、各コースにおいて例会以外での活動(臨時会)を実施する場合がございます。

※2: 活動内容・活動時間は、各コース(取り組むテーマ)によって異なる場合がございます。

※3: 第3回例会(7月)は、合宿形式となります。合宿会場は、東京都内近郊を予定しております。

※4: 第4回例会(9月)は、ソフトウェア品質シンポジウム(本会議)への参加となります。

2 特別講義

品質管理の基本的な考え方、手法、これからのソフトウェアに関する重要なテーマ、分科会テーマに合わせ、それぞれの分野の専門家による講義および質疑応答を行います。

2026年度 特別講義テーマ(予定)

- 5月: SW メトリクスとデータ分析の基礎
- 6月: PS (パートナー満足) とチームビルディング
- 10月: AI の品質について
- 11月: 高品質と高スピードを支えるテストアプローチ
- 12月: 生成 AI に基づく SW 開発のプロセスとマネジメント
- 1月: 流用・派生開発の品質保証

※テーマは都合により、変更になる場合があります。

2025年度(前年度) 特別講義登壇者



鷲崎 弘宣 氏



新谷 勝利 氏



河野 哲也 氏



岸良 裕司 氏



酒匂 寛 氏



森山 明宏 氏



小川 秀人 氏

3 分科会

希望の研究テーマごとに分かれ、指導講師とともに、当該テーマについて深く検討、討議を行います。他企業、異業種の方との情報交換の場でもあります。必要に応じて臨時に分科会を開催することもあります。取り組みたい目的により大きく3種類のコースを設定しています。

研究コース：テーマに関する技術を深めるために、その進化や業務での応用実践などを目指します。最終的に活動によって得られた成果の新規性や有用性などを論文としてまとめます。

演習コース：テーマに関する技術を確実に習得するために、演習を多くこなしながら実践的に学びます。論文執筆は必須ではありませんが、レポートをまとめてもらう場合もあります。

基礎コース：品質技術全般の基礎を学びます。毎回各テーマの専門家による講義と、テーマに沿ったディスカッションにより理解を深めます。単に学習だけではなく、他社の取り組みを知り、自社の課題を把握することができます。論文執筆はありません。

4 ソフトウェア品質シンポジウム (SQiPシンポジウム)

ソフトウェア品質シンポジウムの本会議を研究会活動の場のひとつとしています。シンポジウムは、基調講演、特別講義の他、一般発表(経験論文、経験発表)などを聴講でき、通常例会とは違う視点からご自身の研究分野に関する情報収集の場としてご活用いただけます。(研究員は参加費無料です)

日程: 2026年9月10日(木)～11日(金) / 開催形態: オンライン(予定)

5 研究員特典

- (1) 特別講義のオンデマンドが視聴可能! (講演者から承諾のあったものに限ります)
- (2) 所属コース以外の研究会指導講師陣との個別相談も可能!
- (3) 分科会成果発表会もオンデマンド化し、振り返りが可能!
- (4) SQiP初級eラーニング、SQiPオンデマンドセミナーを参加年度内の学習が無料で可能!
- (5) SQiP関連セミナー受講を特別優待価格(賛助会員価格)で受講可能!
- (6) 日科技連出版社発行の書籍を2割引きで購入可能!
- (7) SquBOKガイド第3版を1割引きで購入可能!

このようなことでお悩みの方には、特におすすめです!!

- ・[効果的・効率的管理] 開発・運用・保守するソフトウェア・システム製品を、より高品質にするための、効果的・効率的な品質管理方法や生成AI等の活用方法を見つけたい!
- ・[品質モニタリング] プロジェクトの上流から下流までのライフサイクルを通じて、品質状況をタイムリーに把握できず、正しく品質確保できているかが気になってしまう!
- ・[部門間連携] 品質管理部門だけでは、これ以上品質向上活動を強化できないところまで来ており、開発部門と連携したい! また、現場で導入が進んでいるアジャイルのような新しい手法やプロセスへの有効な対応を進めたい!
- ・[テラリング] 品質に関して世間で知られている、プロセス・規格・モデル・手法を、現場で有効活用したい!



研究コース1
「ソフトウェアプロセス評価・改善」
P.6

- ・レビューに関して学んだことがないので1から学びたい。
- ・レビューをもっと効率的・効果的に実施できるようになりたい。
- ・自社が抱えているレビューの問題を解決したい。



研究コース2
「ソフトウェアレビュー」
P.7

- ・テストに関する知識を学びたい!
- ・テストを効果的に行ってソフトウェアの品質を向上させたい!
- ・ベテランのテスト技術のノウハウを新人にどう伝えるか悩んでいる。
- ・自分たちのテストのやり方は合っているのか、他の人はどうやっているのか気になる。



研究コース3
「ソフトウェアテスト」
P.7

- ・アジャイル開発における品質保証をどうしたらよいか悩んでいる。
- ・アジャイル開発とほかの開発手法でやっているチームや組織との連携に悩んでいる。
- ・アジャイル開発におけるAIの活用、もしくは、AIを使った製品のアジャイル開発はどうしたらよいか。
- ・アジャイル開発におけるメトリクスはどう考えればよいか
- ・開発者、テストエンジニア、QAのロールはどのように変わったらよいか。



研究コース4
「アジャイルと品質」
P.8

- ・AIシステムにおける品質のあり方・技術を追求したい!
- ・AI技術をはじめとして適切な先端技術を選択、理解して品質保証に活用したい!
- ・GPT/ChatGPTなどの大規模言語モデル・対話的生成AIをはじめとして、先端動向について一緒に追及や議論ができる仲間や専門家とつながっていききたい!



研究コース5
「人工知能とソフトウェア品質」
P.8

- ・実践的なソフトウェア工学手法を学びたい!
- ・実践的なソフトウェア工学の基礎知識を学びたい!
- ・ソフトウェア工学手法の有効性適用場面について学びたい!
- ・現状のソフトウェア開発手法を改善したい!
- ・その分野で書籍の執筆や講演活動を行っている「第一人者」の話を直に聞きたい!



演習コース I
「ソフトウェア工学の基礎」
P.9

- ・これからソフトウェアメトリクスを活用した取り組みを始めようとしており、必要となる基礎知識を得たい。
- ・ソフトウェア開発に関わるデータを収集しているが、データ分析のやり方がわからない。
- ・ソフトウェアメトリクスを活用した取り組みはしているが、有効に機能していない。



演習コースⅡ
「ソフトウェアメトリクス」
P.9

- ・自分が携わった製品/サービスがどのように使われているか・役に立っているか知らない。
- ・ユーザーが使いやすいものを提供したいが、どのように改善したらよいかわからない。
- ・製品/サービスのバグは減っているが、ユーザーからの問い合わせや苦情が減らない。
- ・使って楽しい・嬉しい製品/サービスを企画/開発したいがどうすればよいかわからない。
- ・身の回りの困り事を解決する製品/サービスを創りたいがどうすればよいかわからない。



演習コースⅢ
「UX (User Experience)」
P.10

- ・セーフティやセキュリティの用語や知識を学びたい！
- ・リスク分析手法を身に着けたい！
- ・セーフティやセキュリティの最先端の話題に触れたい！
- ・社外の人たちと安全性（セーフティやセキュリティ）について語り合いたい！
- ・論理的な思考を身に着けたい！



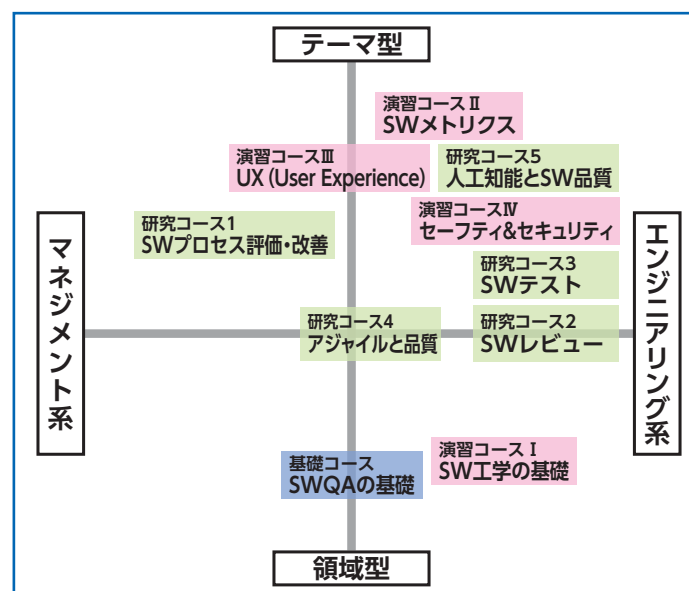
演習コースⅣ
「セーフティ&セキュリティ」
P.10

- ・ソフトウェアの品質に関わったばかり（または無関係）で、何をしたいかわかりません。
- ・ソフトウェア品質の基礎を学び直したい。
- ・組織、現場のソフトウェア品質活動への疑問を解決したい。
- ・他社の事例を知りたい。
- ・学んだことを実践する際にアドバイスが欲しい。



基礎コース
「ソフトウェア品質保証の基礎」
P.11

2026年度本研究会における各コースの位置づけ



研究コース1

ソフトウェアプロセス評価・改善

- 主 査：田中 桂三（オムロン株）
- 副主査：白井 保隆（株東芝）

1. 活動のねらい

ソフトウェア業界では、ソフトウェア品質向上の手段・手法として、これまでの経験より様々な品質管理やプロジェクト管理の方法が提案されています。しかし、これらが現状のソフトウェア開発プロセスに効果的に組み込まれているとは限りません。ソフトウェア品質の改善には、現実を見つめた品質とプロジェクトの管理方法の選定、および開発・保守プロセスへの適切な実装が必要不可欠です。

このような背景を踏まえ、本コースでは、問題解決をはかるために、開発と品質保証の現場に適応する対策方法を探求した上で、プロセス&品質モデル・メトリクス・先端技術等を活用してプロセスの定性的・定量的な分析・評価と組み合わせ、品質やプロジェクト・プロセスのパフォーマンス向上につながるよう、実践的に解決することを目的にしています。

また、参加メンバーが、ソフトウェアプロセスの研究を通じて、ソフトウェア技術者として幅広い知見と深い考察力を習得し、各組織に持ち帰ってさらに活躍されることを期待します。

2. 活動の進め方

各参加メンバーの課題を分析して、必要に応じて幾つかの研究テーマに分類し、テーマごとのグループが主体となって活動することを基本とします。希望に応じてプロセスや品質関連の規格・モデルの勉強会も開催します。

研究テーマとして、ソフトウェア開発や品質管理に関する「プロセス」の分析・評価・改善を通じて、「ソフトウェア品質向上」や「プロジェクト管理技術の強化」などに繋げることに取り組みます。

また参考になるプロセスや品質に関するモデル・概念や手法を選び適用して研究をすることもできます。例えば「プロセス改善モデルの効果的な活用」(CMMI®, ISO/IEC 33000, ISO/IEC/IEEE 15288, ISO/IEC/IEEE 12207) [*1]、「品質特性による品質要求の分析と品質の評価・測定」ISO/IEC 25010 (SQuaRE [*2])、「プロジェクト管理手法の改善」(PMBOK® [*3])、「DevOps[*4]」他の国際規格・デファクトスタンダード・モデル・概念を参照して解決策に用いる、などです。

3. 年間スケジュール

回数	開催月	主な活動内容
1	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーが自己紹介及び業務課題を説明する（担当業務、課題、希望する研究テーマ）。 ・各メンバーの課題や興味がある分野を共有し、希望する研究テーマや課題に応じて研究グループを作る。 ・課題解決策の候補を挙げて議論し、研究テーマと研究目標について検討する。
2	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究グループごとにリーダーを選出し、リーダーシップと各メンバーの自発的な参画で、メンバー主体による運営活動を開始する（研究テーマ・目標（問題特定と解決課題）・進行計画の決定から、仮説（解決手法）提案・調査・分析・研究論文作成に至るまでの研究活動を行う）。
3	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決策の議論を深め、選択し、検証できる仮説の立案まで詳細化する。 ・今後の研究の進行に向けた研究の活動項目を洗い出し、役割分担を決定する。
4	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決策の仮説の試行、調査・分析、討論を重ね、現場で仮説検証する。
5	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究論文の内容構成と役割・執筆の分担を決定する。
5	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時研究会を適宜開催して研究内容を深耕する。 ・SQiP シンポジウムに参加する。
6	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究結果を研究論文にまとめ、研究分科会内で繰り返しレビューして論文の内容・記述のレベルを高める。
7	12月	
8	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究論文の初稿を作成する。その後、SQiP 研究会査読者からのレビューを受けて結果を反映し、研究論文を完成させる。 ・研究内容の発表資料を作成し、発表に向けて準備する。
	2月	
9	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容を研究成果発表会で発表する。

4. その他

[*1] :CMMI “能力成熟度モデル統合(Capability Maturity Model Integration)”, ISACA (Information Systems Audit and Control Association)。ISO/IEC 33000 (JIS X 33000) シリーズ“プロセスアセスメント”、ISO/IEC/IEEE 15288 (JIS X 0170) “システムライフサイクルプロセス”、ISO/IEC/IEEE 12207 (JIS X 0160) “ソフトウェアライフサイクルプロセス”。

[*2] :ISO/IEC 25010 システム及びソフトウェア製品の品質要求及び評価SQuaRE (Systems and Software Quality Requirements and Evaluation) –システム及びソフトウェア品質モデル

[*3] :PMBOK “プロジェクトマネジメント知識体系”(Project Management Body of Knowledge)”, Project Management Institute。

[*4] :DevOps “開発チームと運用(保守)チームが連携して、継続的な価値をユーザーに提供し続ける概念”

研究コース2

ソフトウェアレビュー

- 主 査：中谷 一樹 (TIS株)
- 副主査：上田 裕之 (株DTSインサイト)
- アドバイザー：安達 賢二 (Software Quasol)

1. 活動のねらい

レビューはソフトウェアの欠陥を早い段階で検出できる手段として、品質向上に寄与するだけでなく、コスト削減、納期短縮に有効な手段とされています。しかし、ソフトウェア開発の現場において、必ずしもその恩恵が受けられているとは言い難く、様々な悩みを抱えています。

本コースでは、レビューに関してメンバーやその組織が抱えている課題を共有し、その解決策について議論していきます。議論していく上で必要な知識やヒントとして、レビューに関する基礎知識、古典的技法や発展的技法、ならびに、実際の現場で効率的・効果的なレビューを行うための工夫・ノウハウ、個人のレビュースキルを向上させるためのテクニックなどを学びます。

そして、実際に演習で体験してそのやり方の良さや難しさを感じ取っていただき、自組織や自プロジェクトに適用しようとした場合に、どのような問題があるか、どんな工夫が必要かなどを考え、グループで議論していきます。

最近注目されている「生成AIの活用」が解決策の一つになるかもしれません。本コースでは、研究テーマの一つとして、生成AIの活用も積極的に検討していきます。生成AIは、あくまで選択肢の一つですが、希望する参加者にはこのテーマに基づいた具体的な方法を模索していく機会を提供します。

現場ですぐに役に立つレビュー方法、及び、レビューの歴史を変えるような画期的なレビュー方法の考案、この両方を研究の対象とすることに加え、生成AIの活用による新たなレビュー技術の開発など、最新のトレンドを踏まえた研究テーマも選択できるようにしています。

2. 活動の進め方

- (1) メンバーがレビューに関して抱えている問題・課題を出し合います。
- (2) メンバー全員で課題を共有し解決したいテーマを決定します。
- (3) 希望するテーマに応じてサブグループを作ります。
- (4) メンバー主体でチーム運営を行います(サブグループごとのリーダーは立てません)。
- (5) 主査・副主査・アドバイザーは、基礎的な考え方、手法や方法論、最新情報、事例などを紹介し、研究を進めていくための助言と支援を行います。

3. その他

経験・知識の有無は問いません。

レビューについて学びたい方、レビューをもっと良くしたいと思う方、ご参加お待ちしております。

研究コース3

ソフトウェアテスト

- 主 査：喜多 義弘 (長崎県立大学)
- 副主査：秋山 浩一 (株日本ウィルテックソリューション)
- アドバイザー：西田 尚弘 (株日新システムズ)

1. 活動のねらい

ソフトウェア開発の下流工程ではテストの自動化が進み、開発手法は従来のウォーターフォールからアジャイルへと進化しています。テストの環境は以前と比べて格段に良くなり、改善の余地があるところを探すのは徐々に難しくなってきました。

しかしながら、テストの課題や悩みは尽きません。なぜでしょう？

そもそもテストは何のためにやっているのでしょうか？ バグゼロを目指すため？ 品質を担保するため？ 安全性を向上するため？

これらのことから目を背けて、惰性でテストを行っていませんか？

「これだけテストをやれば大丈夫だろう」と何を根拠にそう考えていますか？

テストの目的を理解し、正しい知識を身に付け、テストの在り方についてまっすぐ向き合うことで、「実は今よりもっと良いテストが自分たちにもできるのでは？」と気づくことができるかもしれません。

この気づきを見出す活動の場としてあるのが、この研究コース3「ソフトウェアテスト」です。

2. 活動の進め方

本コースは、ソフトウェア工学の知見を入れた講義を通しながら、テストについての技法やノウハウについて研鑽し、研究していくコースです。新たな試みとしてコース内を研究に特化した「研究グループ」と演習に特化した「演習グループ」の2つに分け、研究コースと演習コースの両面を兼ね備えた内容を考えています。

具体的には、研究グループは従来と同様、テスト技法に関する講義からスタートし、研究テーマや課題を持ち寄り、その解決策などを研究し、最終的に論文を執筆するグループです。一方、演習グループは、テスト技法に関する講義からスタートし、演習を交えながらテスト技法の研鑽を行っていくグループです。

対象として、研究グループではテスト技法の知識を深めたい方や、日々のテスト業務の中で解決したい課題を持っている方を中心とし、研究を通して自身の知識や技術力を高めることを目指します。一方、演習グループではテスト技法の知識を深めたい方はもちろんのこと、テストに対して初学者や若手の方を対象とし、テストに対する正しい知識を身に付け、日々のテスト業務に活かしていくことを目指します。また、これらの活動を通して、各メンバーのテストの現場を改善するために必要な基礎力や課題解決能力の向上も目指します。

4. その他

コースの内容から、参加する方は例年、テストの現場経験が浅い方や若手の方が主ではありますが、ときには自己研鑽のためテスト技術を一から学び直したいベテランの方も参加されます。

年代や現場経験が多様なメンバーになるため様々な議論ができますし、そこから企業間を超えた技術者同士の絆ができることもあります。

3. 年間スケジュール

回数	開催月	研究・演習テーマ
1	5月	オリエンテーション、テスト技法に関する講義
2	6月	テスト技法に関する講義、各メンバーの課題検討
3	7月	テスト技法に関する講義、各メンバーの課題検討、研究テーマの検討
4	8月	テスト技法に関する講義、研究活動
5	9月	ソフトウェア品質シンポジウム (参加)、研究活動
6	10月	研究活動
7	11月	研究活動、論文執筆に関する講義
8	12月	研究活動、論文執筆
9	1月	研究活動、論文執筆、発表資料の作成
10	3月	成果発表会

研究コース4

アジャイルと品質

- 主 査：永田 敦 (NagWaq 研究所)
- 副主査：荻野 恒太郎 (株式会社カクコム)
- アドバイザー：山口 鉄平 (株式会社LayerX)

1. 活動のねらい

アジャイル開発を品質の視点から捉えると、それが優れたソフトウェアエンジニアリングの実践体系であることが見えてきます。本研究会では、アジャイルの価値や原則を品質の観点から体系的に整理し、現場でその真意を伝えるための方法を探求します。目的は、アジャイルによってチーム・組織・顧客が真の価値と品質の恩恵を得られるようにすることです。アジャイルの実践は、組織やドメイン、製品特性、メンバー構成によって多様です。本研究会では、異なる現場経験を持つメンバーが課題を持ち寄り、共通テーマのもとで議論・仮説検証を行い、現場に還元できる知見を生み出します。また、AI活用が進む現在、アジャイルのインクリメンタルかつイテレーティブな手法はAI開発と親和性が高い一方で、実践面には多くの課題があります。本研究会では、AI時代の品質・アジャイルの在り方についても研究対象としています。

2. 活動の進め方

コース運営もアジャイルを意識したフレームワークを考え、分科会活動の中でもアジャイルのプラクティショナー、スペシャリストを得て、研究に厚みを加えます。机上での議論ではなく、実際に研究で出た施策を実業務で試みていきます。したがって、それができる環境のメンバーを募集いたします。研究対象は以下の例のように多岐にわたると考えています。メンバーの課題によって選択して小チームに分かれて研究を行っていきます。

アジャイルプラクティスと品質
アジャイル開発と改善
アジャイルテストニング
パターンと品質

アジャイルと品質保証
アジャイルとAI
アジャイルにおけるレビュー
チームビルディング など

自律的改善
アジャイルと要求
アジャイルにおけるメトリクス

3. その他

研究員の方は、原則としてアジャイル開発の現場をお持ちの方、または、これから持たれる方に限らせていただきます。アジャイルの手法は経験的プロセスで、実証的に積み上げられたものであり、ここでの研究も現場での実証をベースにしていきたいからです。

研究コース5

人工知能とソフトウェア品質

- 主 査：石川 冬樹 (国立情報学研究所)
- 副主査：徳本 晋 (富士通株)
- アドバイザー：栗田 太郎 (フリー株)

1. 活動のねらい

AI (人工知能) がプロダクト・サービスに組み込まれる機会が広がり、その品質保証は必要不可欠になっています (**Quality for AI**)。AIの品質保証においては、機械学習技術を用いデータから機能を導くという実装方式に起因する不確かさが高い一方、人間・社会に踏み込んだ品質、あるいは倫理・トラストまで追及することも求められます。このため、ステークホルダーとの対話から、テストの技法、運用・監視まで、従来のソフトウェアとは異なる原則や技術に踏み込み、固有の難しさに対処していくことが必要です。

一方で、従来ソフトウェアの品質保証においても、AIによる先進的な自動化技術を活用することで、様々な問題の解決につながる可能性があります (**AI for Quality**)。データ駆動の機械学習技術の潮流だけにとらわれず、対象の問題を定式化し、機械学習、最適化、制約充足、論理的推論・検証といった様々な技術から適したものを選び使いこなすことが重要となります。

これらのテーマにおいて、対象となる「AI」も、教師あり学習により定型化されたタスクを扱うものから、GPT/ChatGPTをはじめとした大規模言語モデル・対話型生成AIにより非定型な入出力を扱えるものや、RAGシステム、自律性を持つエージェントへと大きく広がりました。対話型生成AI自体の品質を扱うことも、対話型生成AIによる新しい品質技術のあり方を追及することも、喫緊の課題となっています。

本コースでは、Quality for AIおよびAI for Qualityの双方における価値創造や課題解決に挑んでいきます。いずれにおいても、非常に変化が速い先進的な技術を理解しつつ、まだ確立していない「品質のあり方」を議論し追及していくことが重要であり、本コースはそのための場を提供します。

2. 活動の進め方

参加者の興味や問題意識について、講師陣からの最近の動向解説も交えながら全体で意見交換と議論を行います。その後大まかな方向性に基づいてグループ分けを行い、グループごとに具体的な研究テーマを定め取り組みます。

「AIに初めて本格的に取り組む」という方も多く参加されていますが、本研究会ではあくまで研究としてのアウトプットを目指す中で基礎知識や動向について学び、議論していきます。副次的な活動として、参加者の希望に応じ、豊富な知見・資料・コネクションをもつ講師陣を活用いただいて、勉強会等により基礎的・表層的な知識も身につけていただいています。

演習コースI

ソフトウェア工学の基礎

- 主 査：猪塚 修（横河ソリューションサービス株式会社）
- 副主査：長谷川 裕一（(同) Starlight&Storm）
- アドバイザー：鷲崎 弘宜（早稲田大学／国立情報学研究所／システム情報／エクスモーション）

1. 活動のねらい

ソフトウェアやそれにより提供されるサービスに品質を組み入れて保証し続けるためには、企画や要求から保守に至るまでライフサイクルのあらゆる段階において、理論や経験に裏打ちされたソフトウェア工学技術の活用が欠かせません。本コースは1年間を通して、主要なソフトウェア工学技術の一通りを演習により深く体得する機会を提供します。前提知識がないからと臆することはありません。ソフトウェア工学を一から学びたい方、現状のソフトウェア開発を改善したい方、スキルアップしたい方など、誰でもふるってご参加ください。

【本コースのポイント】

- ・代表的ソフトウェア工学技術を「一通り」体得します。
- ・産学両面に通じたその道の「第一人者」の講師陣により指導されます。
- ・とにかく実際に「やってみる」ことで深く理解し記憶に残ります。
- ・組織を超えた「仲間作り」と情報交換ができます。
- ・定例会に加えて「演習臨時会」を実施するためお得です。

2. 活動の進め方

- ・講師による講義を受講し、演習課題に取り組みます。
- ・講師及び主査・副主査は演習や議論を通じて助言と支援を行います。
- ・演習及び議論は必要に応じてチーム単位で行います。
- ・事前学習のための課題が出される場合があります。
- ・基本日科技連にて集合研修を行います。その場合は全員東高円寺ビルへお集まりください。

4. その他

- ・演習のため、PCと各種ツール（Googleスライド他、Miro、Continuous KPTAなど）を使える環境が必要となる場合があります（PCは日科技連でもご用意できます）。

3. 年間スケジュール(2025年度実績。2026年度は変更あり)

回数	開催月	研究・演習テーマ・講師（敬称略）
1	5月	レビュー演習（猪塚 修）
2	6月	体験 オブジェクト指向分析設計（井上 樹）
3	7月	アーキテクチャ設計評価（長谷川 裕一）
4	7月	メトリクス（小笠原 秀人）
5	8月	要求工学（斎藤 忍）
6	10月	アジャイル開発の基礎知識（天野 勝）
7	11月	ソフトウェアテスト技法（樋下田 順也）
8	12月	生成 AIが変革するシステム開発（酒匂 寛）
9	1月	工数見積りモデルの構築手（石谷 靖）
10	2月	ゴール思考分析ほか（鷲崎 弘宜）
11	3月	成果報告会

演習コースII

ソフトウェアメトリクス

- 主 査：柏原 一雄（株式会社デンソークリエイト）
- 副主査：小池 利和（ヤマハ株式会社）
- アドバイザー：小室 睦（株式会社プロセス分析ラボ）

1. 活動のねらい

演習コースII「ソフトウェアメトリクス」は、ソフトウェア品質技術の1つの柱とも言えるメトリクスに特化したコースです。ソフトウェアの品質保証、プロセス改善、開発力向上のためにメトリクスを活用したい方を対象にしたコースです。

メトリクス測定、データのハンドリング、分析の各種手法を網羅的に習得していただきます。書籍「ソフトウェアメトリクス統計分析入門」に、実践→理論→考察→実践→・・・というスパイラルで、理解を深めていく有効な学び方が示されています。この考え方を参考に、本コースでは、手を動かす演習を重視しています。演習内容は、ほぼすべて講師の実践経験にもとづいたものであり、実践の疑似体験ができます。また、単なる詰め込み教育とはならないよう、学んだことを自身の職場で実践し、最終的にレポートとしてまとめることを目標にしています。

こうした、実践を重視するスタイルの本コースに参加することで、学んだ技術をすぐに現場で使える状態になります。

2. 活動の進め方

メトリクス測定、データのハンドリング、分析の各種手法などを、講義だけでなく演習とディスカッションを交えながら学びます。

演習では、主にExcelを用いたデータ加工の方法やフリーの統計パッケージR、Rコマンドを用いた統計手法などを習得します。講師の実践経験、研究員の実践経験を共有するディスカッションの場も用意し、研究員それぞれの課題解決の参考にさせていただきます。分科会終了後(18:15～)に、飲食もしながらリラックスして、メンバー持ち回りで事例紹介をする「アフター」と呼ばれる活動も行います。

そして、講義・演習を通して習得したことを研究員のご自身の現場で実践していただき、コースの最後に「実践レポート」を作成していただきます。「実践レポート」作成に際しての困りごと等あれば、いつでも講師陣に相談をしていただけます。既に解決したい課題をお持ちで、関連するデータ収集もされているという場合には、解決策の個別指導のご要望にお応えします。

4. その他

参考文献

- [1] 野中誠、小池利和、小室睦、「データ指向のソフトウェア品質マネジメント」、日科技連出版社、2013
- [2] 小池利和、「ソフトウェアメトリクス統計分析入門」、日科技連出版社、2015

3. 年間スケジュール

回数	開催月	内容
1	5月	・メトリクス概論
2	6月	・欠陥、工数、規模の測定方法
3	7月	・R コマンド操作 ・統計基礎 ・データ可視化事例の紹介
4	8月	・データ可視化ワークショップ（GQM 演習）
5	9月	・ソフトウェア品質シンポジウム
6	10月	・データハンドリング（Excel/VBA & DB 操作）
7	11月	・統計的検定
8	12月	・相関、回帰分析
9	1月	・データ分析ワークショップ
10	2月	・実践レポート発表会
11	3月	・最終成果報告会

※カリキュラムの順番、開催月は変更される可能性があります。

演習コースⅢ

UX(User Experience)

- 主 査：金山 豊浩 (株メンバーズ)
- 副主査：村上 和治 (株SHIFT)
- アドバイザー：三井 英樹 (株Weblysts.com)

1. 活動のねらい

UX (User Experience) とは、製品やサービスを利用した際の「体験」を重視する設計思想で、利用者の目的や意向に沿って心地よく効率よく使えるように調査・設計・評価・開発を行うベースとなるものです。

本コースでは、UXに着目した研究を通して積み重ねてきた、企画品質や利用時品質を高めるノウハウ[*1]を演習形式で学び、ソフトウェア開発現場で実践できるように支援します。

「HCDコンピタンスマップ(2024年度)」を意識して、能力・技能・知識の向上を目指します。

2. 活動の進め方

全体を通して、UX手法の考え方や実践方法について座学、体験、ディスカッションにより学びます。

毎回、過去に研究・実践した手法やテーマを取り上げ、各自が理解・試用・振り返りを行います。

関連文献を事前に読んでから参加していただき、各回で簡易レポートを提出していただきます。

(初回は、各自が携わる製品/サービスのビジネスモデル[*2]を作成して参加してもらいます)【実践するUX手法の例】[*3]

調査：インタビュー、ペルソナ、シナリオ

設計：ストーリーボード、UIデザインパターン、プロトタイプ

評価：ユーザビリティテスト、専門家評価

3. 年間スケジュール

回	月	演習テーマ	内 容
1	5月	オリエンテーション	UX 概論、製品 / サービスのビジネスモデル (事前課題) & KPI
2	6月	利用者視点欠乏症	診断→処方箋 (UX ソリューションマップ)、UX 手法概説
3	7月	デザインスプリント	ニーズ把握→ToBe 体験デザイン→プロトによる簡易評価
4	8月	補習 (復習、強化)	インタビュー、ストーリーボード、プロト精緻化など
5	9月	参考情報収集	ソフトウェア品質シンポジウム聴講→UX 関連発表の共有
6	10月	ユーザビリティ評価	評価手法、指標 (効果 / 効率 / 満足度, SUS, UX ホイール)
7	11月	評価結果の分析と改善	評価結果分析、改善案策定 (UX 5 階層分析, ばやき分析)
8	12月	報告書執筆、実践付録化	報告書執筆、実践内容の付録化
9	1月	報告書確認と発表準備	報告書仕上げ、プレゼン方法検討
10	3月	成果発表会	プレゼンテーションの UX 向上

4. その他(演習テーマ、注意事項、参考文献、本コースの目指すべき姿、理想像等)

参考文献

[*1]・SQiPライブラリ (UX関連文献) : <https://www.juse.jp/sqip/library/search/?q=UX>

・活動履歴: https://www.juse.or.jp/sqip/workshop/outline/file/enshu3_ux_katsudorireki.pdf

[*2] ビジネスモデル2.0図鑑

<https://note.com/tck/n/n95812964bcbb>

[*3] :書籍 川西 裕幸・栗山 進・潮田 浩、『UXデザイン入門』、日経BP社、2012 <https://www.amazon.co.jp/dp/B00KGTZG36>

演習コースⅣ

セーフティ&セキュリティ

- 主 査：高橋 雄志 (東日本国際大学)
- 副主査：安樂 啓之 (インフォテック株)
- アドバイザー：金子 朋子 (創価大学)

1. 活動のねらい

本コースは、開講10年目を機に指導体制を一新し再出発いたします。変わりゆく時代に求められるスキルを身につけるため、セーフティ&セキュリティをテーマとして、「知識の深化(インプット)」と「課題解決力の習得(アウトプット)」を両輪で追求します。最新の知見からレガシー技術までをインプットし、その知識を「使える智慧」に変えて現場の課題を突破する力を磨き上げます。

活動の集大成として、成果報告書や論文といった形で成果をまとめます。このプロセスを通し、論理的思考力や、自らの経験や知見などの暗黙知を他者に明確に伝える成果の可視化能力を身につけることができます。

本コースではセーフティとは、偶発的なミス、故障などの悪意のない危険に対する安全、セキュリティとは、悪意をもって行われる脅威に対しての安全と定義し、両面から問題に対応できる能力の育成を目指します。

これまでも、自動運転や安全性分析に対する生成AIの支援の可能性など最先端の課題に取り組んできたことも魅力のひとつです。

2. 活動の進め方

本コースでは、活動開始前に、簡単な書式で自己紹介の記入をお願いしております。この中で、ご自身の参加の動機や業務における課題などについて可能な範囲でご記入いただき共有を行います。その後、安全安心に関わる様々なテーマで講義を行い、演習やグループワークを通して深く技術を体得する機会を提供します。

また、メンバー同士の交流・議論を通じて身につく考える力や表現する力は、自社の業務に役立ちます。事前学習や復習のための課題が出される場合があります。最終的に可能であれば、1年間の活動成果を論文としてまとめることを推奨しています。論文としてまとめない場合も、成果報告書は研究員の皆さまに作成していただきます。

特定のテーマについては外部講師をお招きし、最新の技術動向やトピックを提供しますので、継続的な参加を歓迎します。もちろん、単年受講の方も歓迎します。分科会活動のない月(9月)や、テーマに近いトピックを扱うシンポジウムへの参加推奨、成果報告書をまとめる段階など、適宜(年間で2から5回程度)、臨時会を開催します。

3. 年間スケジュール

回数	開催月	研究・演習テーマ	内 容
1	5月	ガイダンス	分科会の進め方
2	6月	リスク分析の演習	ロジックツリーを用いた分析など
3	7月	セーフティ & セキュリティ	合宿
4	9月	ソフトウェア品質シンポジウム	8月か9月に臨時会有り
5	10月	外部講師による講演とディスカッション	レジリエンスエンジニアリング
6	11月	外部講師による講演とディスカッション	セキュリティの最新動向
7	12月	成果報告に向けたグループワーク	グループワーク
8	1月	成果報告内容の検討・作成	文書化・事例化
9	3月	成果発表会	1月後半や2月に成果発表に向けた臨時会有り

4. その他(演習テーマ、注意事項、参考文献、本コースの目指すべき姿、理想像等)

STAMPやFRAMなどのモデリング手法を扱い、実践的な安全性分析のノウハウを習得します。

専用ツールを用いた演習を行うため、スムーズな進行のため作業用PCのご持参を推奨します。

(※必須ではありませんが、ご持参いただくことで効率的に学べます。)

最終成果で論文を選択した場合には、問題提起から解決に至るロジック構築と伝達のテクニックを集中的にサポートします。

完成した成果は、SQiPシンポジウムなどの外部発表へと発展させることを積極的に推奨・支援いたします。

【参考文献】セーフティ&セキュリティ入門～AI、IoT時代のシステム安全

- 主 査：岩井 慎一(株デンソー)
- 副主査：土屋 治世(SCSK株)
- アドバイザー：飯泉 紀子(丞コンサルティング株)

1. 活動のねらい

ソフトウェアの品質保証に新たに取り組まれる方、改善や改革を目指している方を対象に「ソフトウェア品質保証の基礎」を習得することをねらいとしています。実務経験豊かな指導講師による講義と、講師とメンバー及びメンバー同士のディスカッションを通じて、考える力を身につけ、自分自身のスキルとすることを目指します。

本コースを足掛かりに、翌年以降、他コースへ参加するメンバーも多数おり、SQiP研究会の入門コースとしても位置づけられています。

2. 活動の進め方

各回、前半は講義、後半はグループディスカッションを実施します。

前半の講義では、ソフトウェア品質保証の基礎技術について、当該技術の専門家による講義を行います。講義の中では、必要に応じて演習も行います。講義のテーマは、『ソフトウェア品質知識体系ガイド-SQuBOK®Guide-』の知識領域の多くをカバーしています。

後半のグループディスカッションでは、各回の講義テーマについて、他の企業のメンバーとのディスカッションを通じて、自社の改善に役立つ情報や知見を交換します。また、当該テーマに関する問題点と改善提言をまとめます。

本コースは例会に加えて、2回の特別例会を実施します。

原則、日科技連(東高円寺)に集合して実施します。やむを得ず日科技連に来ることができない場合はリモート参加も可能ですので、主査に相談してください。

3. 年間スケジュール

回数	実施月	テーマ	内 容
1	5月	ソフトウェア品質の基礎	品質の基礎とソフトウェア開発のボトルネックについて概要を説明する。
2	6月	品質マネジメントシステム	ISO 9001 や CMM ® / CMMI ® 等ソフトウェアの品質マネジメントシステムと品質管理の概要を説明する。
3	7月	アジャイルの基礎 アジャイル開発の品質確保のポイント	アジャイルを正しく理解して実践するための基礎となる考え方、取り組む姿勢などを説明する。 アジャイル開発での品質をどのように確保していくのか説明する。
4	8月 特別例会	レビュー技術	レビューの基本的な考え方と進め方の説明に加え、レビューの必要性と心構え、レビュー技法、レビュー評価技術、レビュー支援ツールや環境、レビュー教育などについて具体例を交えて紹介する。
5	10月	ソフトウェアテスト技術	テスト項目設計技法、テスト実施のポイント等について説明する。
6	11月	UX (User Experience)	ユーザビリティ技法の概要と、そのテスト手法について説明する。(演習コースⅢ：UXと合同開催)
7	12月	AI の基礎	AI の基礎と AI を利用するに当たっての注意すべき事を説明する。
8	1月	要求分析 プロジェクトマネジメント	要求分析に必要なトピックスと勘所を紹介する。 不確定要素に対応するためのプロジェクトマネジメントとリスク管理を説明する。
9	2月 特別例会	メトリクスの基礎	ソフトウェアメトリクスとは何か、メトリクスが必要な理由を説明し、分析手法の一例を紹介する。
10	3月	成果発表会	全体の成果発表会にて、本コースの成果を発表する。

4. その他

本コースでは論文作成はありません。

特に事前に必要な知識はありませんが、一部の講義でExcelの分析ツールやGoogleスプレッドシートを使用します。

グループ討議は資料共有、リモート参加の人との議論のためにZOOMを用いて行いますので、毎回PCとヘッドセットの持参をお願いします。

やる気・元気・根気があれば大丈夫ですので、まずは基礎コースから参加を検討ください。

参加者が1社につき6名を超える場合は調整させていただくことがあるかもしれませんが、全体の人数制限はありません。

本コース修了者は、初級ソフトウェア品質技術者資格試験(JCSQE初級試験)の受験を推奨します。ソフトウェア品質保証の基礎技術を体系的に学んだ結果をぜひ力試ししてみてください。

(参考URL:<https://www.juse.jp/jcsqe/>)。

派遣者の声



中島 要 様

株式会社feat
技術部
部長

品質保証に関するの モチベーションが上がる研究会

当社は設立当初より、ソフトウェアの第三者検証をメインの事業としていますが、お客様先常駐での業務が多く、品質技術についてはどうしても現場に依存しがちでした。

会社として知識を資産化しなければならないと考え、2017年にSQiP研究会へ参加したのがきっかけです。

SQiP研究会には様々なテーマを扱う分科会が用意されていますので、あらゆる角度からの研究とナレッジ蓄積を期待していました。

事業形態上、パイロットプロジェクトを作ることは簡単ではありませんでしたが、各研究員および社内関係者協力のもと、今日に至るまで足掛け6年ほど毎年数名ずつ研究員を派遣させて頂いております。

研究の成果が社内ナレッジに還元されたり、業界動向・他社様の考えを伺うことができた点など、多くの収穫がありましたが、何より、派遣した研究員が嬉しそうな顔をして、研究会で得た新しい情報を話してくれる姿は「派遣して良かった」と思える瞬間です。

社員のモチベーションが上がっているんです。

品質に関して少しでも悩みのある方々、是非SQiP研究会への参加を検討してみてください。

参加者の声



伊藤 弘毅 様

三菱電機株式会社
設計システム技術センター
ソフトウェア技術推進部
専任

研究会で知識と活動の幅を 広げることができました！

活動を通じて何か自社の開発に役立つ技術を身につけたい、社外の人と交流して世の中の動向や悩みを共有したいと思い、研究会に参加しました。SQiP研究会は、経験豊富で一流の主査の方々が指導され、様々な企業の方々が参加されるとても有益な場であると思っています。

私の所属した研究コース「人工知能とソフトウェア品質」では、各自で取り組む課題を決めるスタイルだったので、自分がやってみたいと思っていたトピックについて、とことん取り組むことができました。主査の方々の議論の中で、課題の解決に役立つ新しいアプローチを紹介していただき、一年でしっかりと実践できるようになりました。また、社外の方と議論したり雑談したりするのも興味深く、とても楽しい時間を過ごしました。

研究会でまとめた論文の内容は、報告会とは別にシンポジウムでも発表することを予定しています。私自身、今回の参加をきっかけに知識と活動の幅の広がっていくのを感じています。SQiP研究会は得られる知見の点でも人とのつながりの点でも、新しい世界へ踏み出す第一歩を与えてくれたと思います。

※所属はインタビュー当時のものになります。

参加会社30社の声を掲載しています。ぜひご覧ください。▶▶▶▶▶ https://www.juse.or.jp/sqip/workshop/user_voice/

2024年度分科会成果報告

■研究コース1「ソフトウェアプロセス評価・改善」

若手見守り隊

Coaching and Facilitation Empowerment (CaFE)メソッドによる自律人材育成
- 若手をやる気にさせるアプローチ方法の提案 -

QC コンパス

プロジェクト品質特性の優先度導出と最適なテラリングへ導く「QCコンパス」の提案

Self-Assessor

生成AIを活用したソフトウェア開発プロセスのセルフアセスメントアシスタント(AI-ProSaA)の提案

■研究コース2「ソフトウェアレビュー」

ナラティブチーム

ナラティブアプローチを参考にしたレビュー教育の提案 ~物語の疑似体験が、実践の場で使える知恵を授ける~

褒めるレビューチーム

作成品質が向上するレビュー手法の提案
- 褒めて伸ばす魔法のレビュー -

■研究コース4「アジャイルと品質」

振り返りグループ

品質向上を促進するためのアジャイル開発における振り返りの効率的な意見収集方法の探求
- チームの声を活かす:アジャイル開発における意見収集を通じた改善サイクルの構築 -

自動テストグループ

フレイキーテストにどう立ち向かうか

■研究コース5「人工知能とソフトウェア品質」

D2E-AIチーム

文書間差分抽出における生成AI活用の考察

AI Kanten チーム

生成AIを利用するシステムの安全性評価を支援するテスト観点表の提案

AI4UX チーム

UXデザインプロセスへの生成AIの適用可能性とその効果
~『癒し』ロボット開発をケーススタディとして~

AI4BUGDOCS チーム

RAGによる既知障害情報の活用方法に関する考察

類似度活用チーム

繰り返しのテストを要する生成AIテストの効率化
- 類似度算出と同義文判定による検証コスト削減の検討 -

■演習コースI「ソフトウェア工学の基礎」

演習コース I「ソフトウェア工学の基礎」活動報告

■演習コースII「ソフトウェアメトリクス」

演習コース II「メトリクス演習コース」活動報告

■演習コースIII「UX (User Experience)」

演習コース III「UX(User Experience)」活動報告

■演習コースIV「セーフティ&セキュリティ」

演習コース IV「セーフティ&セキュリティ」活動報告

■基礎コース「ソフトウェア品質保証の基礎」

基礎コース「ソフトウェア品質保証の基礎」活動報告



活動成果はこちら

2024年度 分科会成果報告はこちら ▶▶▶▶▶ <https://www.juse.or.jp/sqip/workshop/report/2024.html>

過去の分科会成果報告は、SQiP研究会Webサイトでご覧いただけます。ぜひご覧ください。

<https://www.juse.or.jp/sqip/workshop/report/>

過去の参加企業一覧(2010年~2025年)

250社以上の企業に参加いただいています！

(株) IHI
(株) IHI エスキューブ
アイエス情報システム(株)
アイエックス・ナレッジ(株)
(株)アイシン
アイシン・コムグループ(株)
アイシン精機(株)
アイホン(株)
アクセンチュア(株)
旭化成(株)
旭化成エレクトロニクス(株)
(株) AGEST
アズビル(株)
(株)アドバンテスト
アドビ(株)
アビームコンサルティング(株)
APRESIA Systems (株)
アルパイン(株)
アンリツ(株)
アンリツエンジニアリング(株)
アンリツネットワークス(株)
(株) E ストアー
イーソル(株)
(株)イクズアネックス
(株)イシダ
IDEC (株)
伊藤忠テクノソリューションズ(株)
(株)インテック
(株)インテリジェンス ビジネス ソリューションズ
インフォテック(株)
ウイングアーク1 s t (株)
(株) Wells System Design
AJS (株)
(株)エクサ
(株)エヌイーシー
(株)エス・キュー・シー
SCSK (株)
NEC アクセステクニカ(株)
NEC ソフト(株)
NEC ソリューションイノベータ(株)
(株) NS ソリューションズ東京
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)
エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)
(株)エヌ・ティ・ティ・データ
(株) NTT データ SBC
(株) NTT データ CCS
(株)エヌ・ティ・ティ・データシステム
エヌ・ティ・ティ・データシステム技術(株)
NTT テクノクロス(株)
エプソンウェア(株)
(株)エフネット
MHI エアロスペースシステムズ(株)
エンカレッジ・テクノロジ(株)
(株)オーグス総研
岡三情報システム(株)
(株)小田原機器
(株)オネスト
(株)小野測器
オムロン(株)
オムロンミュージメント(株)
オムロンソフトウェア(株)
オムロンヘルスケア(株)
オリパス(株)
オリンパスソフトウェアテクノロジー(株)
ガイオ・テクノロジー(株)
カルソニックカンセイ(株)
関電システムソリューションズ(株)
キャノン(株)
キャノン IT ソリューションズ(株)
キャノンアイテック(株)
キャノンイメージングシステムズ(株)
キャノン技術情報サービス(株)
キャノンソフトウェア(株)
キャノンファインテック(株)
キャノンメディカルシステムズ(株)
(株)ケアコム
(株)コウェル
(株)構造計画研究所
(株)神戸製鋼所
(株)コスモコンピューターセンター
コニカミノルタ(株)
小松開発工業(株)
(株)小松製作所
サイバートラスト(株)
サイボウズ(株)
サトーテクノロジー(株)
サントリーシステムテクノロジー(株)
(株)サンモアテック

(株)シーイーシー
GE ヘルスケア・ジャパン(株)
(株) CSK
(株) JSOL
(株)システムソフィア
(株)システムフロンティア
シスメックス(株)
(株) SHIFT
ジブラルタ生命保険(株)
(株) JAL インフォテック
新日鉄ソリューションズ(株)
スズキ(株)
住友重機械工業(株)
住友理工(株)
セイコーエプソン(株)
(株)セゾン情報システムズ
ソーバル(株)
SODICK AMERICA CORP.
ソニー(株)
ソニーイーエムシーエス(株)
ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)
ソニーネットワークコミュニケーションズ(株)
(株)ソフトフロント
SOMPO システムイノベーションズ(株)
ダイキン工業(株)
ダイキン情報システム(株)
ダイニチ工業(株)
大日本印刷(株)
TIS (株)
DIC (株)
(株)ディー・エヌ・エー
(株) DTS
(株) DTS インサイト
テクニカルジャパン(株)
テクマトリックス(株)
テックスエンジニアリング(株)
鉄道情報システム(株)
(株)テブコシステムズ
(株)デンソー
(株)デンソーウェーブ
(株)デンソーエアクール
(株)デンソーエスアイ
(株)デンソークリエイティブ
デンソーテクノ(株)
(株)電通国際情報サービス
(株)東海理化
東京エレクトロン(株)
東京海上日動システムズ(株)
東京計器(株)
(株)東京精密
(株)東京ビジネスソリューション
(株)東光高岳
東光東芝メーターシステムズ(株)
(株)東芝
東芝システムテクノロジー(株)
東芝システムテクノロジー(株)
(株)東芝 社会インフラシステム社
東芝デジタルソリューションズ(株)
東芝電波システムエンジニアリング(株)
(株)東証システムサービス
東洋電装(株)
東洋ビジネスエンジニアリング(株)
(株)トーマスシステムズ
ドコモ・テクノロジー(株)
トヨタ自動車(株)
ナブテスコ(株)
(株)ニコン
(株)ニコンイメージングシステムズ
(株)ニコンシステム
(株)日新システムズ
ニッセイ情報テクノロジー(株)
日本電気(株)
日本電気航空宇宙システム(株)
日本電気通信システム(株)
(株)ニデック
日本 ATM ヒューマン・ソリューション(株)
(株)日本オープンシステムズ
日本ガイシ(株)
(株)日本科学技術研修所
日本システム技術(株)
(株)日本総合研究所
日本電子(株)
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)
日本ナレッジ(株)
日本発条(株)
日本プロセス(株)
日本ユニシス(株)
(株)ネクストジェン

農中情報システム(株)
(株)ノーリツ
(株)野村総合研究所
バイオニア(株)
パナソニック(株)
パナソニック(株) AVC ネットワークス社
パナソニック(株) エレクトリックワークス社
パナソニックオペレーションエクセレンス(株)
パナソニックコネクタ(株)
バルデス(株)
ピアメカニクス(株)
ピー・シー・エー(株)
ピー・ユー・ジードMG森精機(株)
ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ(株)
(株)ビズリーチ
日立オートモティブシステムズ(株)
(株)日立システムズ
(株)日立製作所
(株)日立製作所 インフラシステム社
(株)日立製作所 情報・通信システム社
(株)日立ソリューションズ
(株)日立ソリューションズ・クリエイト
(株)日立ソリューションズ東日本
(株)日立ハイテクソリューションズ
(株)ビッグツリーテクノロジー&コンサルティング
(株)ビデオリサーチ
BIPROGY (株)
1st Nexspire (株)
(株) feat
(株) Photosynth
富士ゼロックス(株)
富士ゼロックスアドバンストテクノロジー(株)
富士通(株)
富士通九州ネットワークテクノロジーズ(株)
富士通クオリティ・ラボ(株)
(株)富士通ゼネラル
富士通セミコンダクター(株)
富士電機(株)
富士フィルム(株)
富士フィルムソフトウェア(株)
ブライシス(株)
ブラザー工業(株)
ブリヂストンソフトウェア(株)
(株)ブロードキャスト
ベックマン・コールター(株)
ベックマン・コールター・バイオメディカル
(株)ベリサーチ
(株)堀場エステック
(株)本田技術研究所
(株)ミットヨ
三菱重工(株)
三菱総研 DCS (株)
三菱電機(株)
三菱電機コントロールソフトウェア(株)
三菱電機ソフトウェア(株)
三菱電機マイコン機器ソフトウェア(株)
三菱電機メカトロニクスソフトウェア(株)
三菱プレジデント(株)
三菱UFJ トラストシステム(株)
ミラクシアエッジテクノロジー(株)
(株)村田製作所
(株)メタテクノ
メットライフ生命保険(株)
(株)メディカルシステム研究所
メルコ・パワー・システムズ(株)
(株)モバイルインターネットテクノロジー
(株)モリサワ
矢崎総業(株)
矢崎部品(株)
(株)山武
(株)山武 ビルシステムカンパニー
ヤマハ発動機(株)
ヤンマーエネルギーシステム(株)
ヤンマー情報システムサービス(株)
ヤンマーホールディングス(株)
USOL 東京(株)
(株)ユニテソフトウェアリサーチ
横河電機(株)
(株) LIXIL
リコー IT ソリューションズ(株)
(株)両備システムズ
(株)菱友システムズ
(株)リンクレア
(株)レベルファイブ
ローム(株)
早稲田大学

※会社名は参加当時の社名を掲載、順不同

2026年度ソフトウェア品質管理研究会指導講師(予定)

●本研究会は次の方々のご協力を得て、例会の企画と指導を行っております(順不同・敬称略)

2025.11.1現在

◎	鷺崎 弘宣	早稲田大学/国立情報学研究所/システム情報/エクスマーシオン
○	栗田 太郎	フリー(株)
□	田中 桂三	オムロン(株)
	白井 保隆	(株)東芝
□	中谷 一樹	TIS(株)
	上田 裕之	(株)DTSインサイト
ア	安達 賢二	Software Quasol
□	喜多 義弘	長崎県立大学
	秋山 浩一	(株)日本ウィルテックソリューション
ア	西田 尚弘	(株)日新システムズ
□	永田 敦	NagWaq 研究所
	荻野 恒太郎	(株)カカココム
ア	山口 鉄平	(株)LayerX
□	石川 冬樹	国立情報学研究所
	徳本 晋	富士通(株)

□	猪塚 修	横河ソリューションサービス(株)
	長谷川 裕一	(合)Starlight & Storm
□	柏原 一雄	(株)デンソークリエイト
	小池 利和	ヤマハ(株)
ア	小室 睦	(株)プロセス分析ラボ
□	金山 豊浩	(株)メンバーズ
	村上 和治	(株)SHIFT
ア	三井 英樹	Weblysts.com
□	高橋 雄志	東日本国際大学
	安樂 啓之	インフォテック(株)
ア	金子 朋子	創価大学
□	岩井 慎一	(株)デンソー
	土屋 治世	SCSK(株)
ア	飯泉 紀子	丞コンサルティング(株)

◎:ソフトウェア品質管理研究会運営小委員会委員長 ○:同委員会副委員長 □:同委員会委員 ア:アドバイザー

※指導講師は都合により変更になる場合がございます。

参加要領

1 活動期間

2026年5月～2027年3月

例会…5月、6月、7月、9月(「ソフトウェア品質シンポジウム」を含む)、10月、11月、12月、1月、3月の計9回(基礎コースのみ、2回追加実施予定)。原則として、各例会は10:00～18:00。ただし、7月は東京近郊で1泊2日の合宿を行います。第9回例会(3月)は、分科会の成果発表会です。

●開催日程※1

第1回例会	2026年 5月29日(金)
第2回例会	6月19日(金)
第3回例会	7月16日(木)～17日(金)※2
第4回例会	9月10日(木)～11日(金)※3
第5回例会	10月16日(金)
第6回例会	11月13日(金)
第7回例会	12月11日(金)
第8回例会	2027年 1月22日(金)
第9回例会	3月12日(金)

※1:例会開催日は都合により、変更になる場合がございます。変更が生じた場合は、Webサイトでお知らせいたします。
また、各コースにおいて例会以外での活動(臨時会)を実施する場合がございます。

※2:第3回例会(7月)は、合宿形式となります。合宿会場は、東京都内近郊を予定しております。

※3:第4回例会(9月)は、ソフトウェア品質シンポジウム(本会議)への参加となります。

2 実施形態

ハイブリッド開催(集合・オンライン)

集合形式:一般財団法人日本科学技術連盟・東高円寺ビル
オンライン形式:オンライン会議システム[Zoom]

研究会お申込みに関する キャンセルの取扱いとお願い

研究会にお申込み後、やむを得ない事由により、参加者の都合が悪くなった場合には、できるだけ代理の方のご参加をお願いいたします(ただし、研究会活動期間中での参加者変更、代理出席は不可)。

お客様の都合で参加をキャンセルされる場合にはセミナー受付にE-mailまたは電話にて研究会第1回例会参加の前にご連絡をお願いいたします。その際、ご連絡日により、次のキャンセル料をご負担いただきますことあらかじめご了承ください。

【キャンセル料】 開催日の7営業日前～1営業日前 17:00までのキャンセル …………… 参加費の 50%
開催日の1営業日前17:00以降のキャンセルまたは事前にご連絡がなかった場合 …………… 参加費の100%

3 参加費(1名)*税込

326,700円(一般) / 297,000円(会員)

組織の人材教育の継続と、個人のステップアップのために推奨している「複数年参加」を協力にサポートいたします!! 組織の持続的成長の核となる継続的な「ひとづくり」。ぜひ継続参加企業の特典をご利用ください。

■継続参加企業の特典

311,850円(一般) / 282,150円(会員)

[対象1] 前年度から継続参加している企業または参加者

[対象2] 2010年度以降「実践コース」に申込みをされた企業または参加者

■日科技連賛助会員入会がお得です!

1社から複数名ご参加の場合、ご検討ください。

4 特別講義参加費(1名)*税込

単発申込:22,000円(一般/会員)*税込

年間申込:88,000円(一般/会員)*税込

5 申込方法

研究会WEBサイト「参加要領・申込」からお申し込み手続きをしてください。

参加申込のスタートは、2026年1月下旬の予定です。

■申込締切: 2026年4月23日(木) 予定

(一財)日本科学技術連盟 受付担当

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

TEL:03-5378-1222

E-mail:regist@juse.or.jp

■申込はこちら:

<https://www.juse.or.jp/sqip/workshop/participation/>



申込はこちら

内容についてのお問合せ先

一般財団法人 日本科学技術連盟
ソフトウェア品質管理研究会担当

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

TEL: 03-5378-9813

E-mail: sqip@juse.or.jp <https://www.juse.or.jp/>

お問合せはE-mailでお願いいたします。